

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	13-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Gender differences in lifetime alcohol dependence: results from the national epidemiologic survey on alcohol and related conditions. 生涯アルコール依存症における性差：アルコールおよび関連要因に関する全国疫学調査からの結果</p>		
<b>執筆者</b>		
Khan S, Okuda M, Hasin DS, Secades-Villa R, Keyes K, Lin KH, Grant B, Blanco C.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 Oct;37(10):1696-705. doi: 10.1111/acer.12158.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
NESARC(アルコールおよび関連障害の米国全国疫学調査)、アルコール依存症、性差、疫学		23763329
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
広範囲な臨床文献はアルコール依存症の個人の病因および臨床的特徴の性差を報告したが、未だ多くの重要な質問が残る。		
<b>方法：</b>		
2001年から2002年に実施されたアルコールおよび関連障害に関する米国全国疫学調査を用いて、男性2,974人、女性1,807人の生涯アルコール依存症であった患者における、社会人口統計学的な特徴、精神疾患併存、臨床的な関連、危険因子、治療の利用状況についての性差を検討した。		
<b>結果：</b>		
生涯アルコール依存症であった男性は、物質依存障害や反社会性パーソナリティ障害と診断される傾向が強く、女性は気分障害や不安障害の傾向が強かった。社会人口統計学的な特徴と精神的な依存症の性差を調整したところ、アルコール依存症は女性のみで外向性障害と気分障害に関連していた。より多くの基準を満たしたアルコール依存症の男性は、罹患期間が長く、より若い年齢で初めての飲酒を経験していた。寛解率に性差はなかった。アルコール依存症の女性は、アルコール使用障害の既往がある配偶者や家族がいる傾向が強かった。治療割合は男女とも低く、女性は治療の障壁として社会的な不名誉を報告する傾向が強かった。		
<b>結論：</b>		
障害アルコール依存症であった人では、精神疾患併存、危険因子、臨床的な特徴および治療利用の状況について重要な性差を認めた。		